ACP 03

穴吹コミュニティ情報紙
アナブキ・コミュニティ・プレス | 2018 6月号

CONTENTS

01..03 INTERVIEW コルシカ・ナポレオニカ社 代表取締役社長 アンリ・ド・ロッカ=セラ Henri de ROCCA-SERRA
04 手作りお菓子でハッピータイム 薔薇のアップルパイ
06 自宅で楽しむ パリスタイル・フラワーデザイン
07..09 特集 大橋 わか：紙上セミナー サラバ!片付けられない私 サラバ!片付かない部屋
Column 13 自分らしく暮らす部屋づくり 14 暮らしの日本語今昔 15.16 読者の広場 15 読者プレゼント

日仏の歴史ある交流活動を物語るモンソー公園の灯籠。コルシカ島は日本同様、松の木が美しく自生する場所として知られている。

INTERVIEW

コルシカ・ナポレオニカ社 代表取締役社長

アンリ・ド・ロッカ=セラ

Henri de ROCCA-SERRA

私にとって日本は『心の故郷』なのです。

アンリさんは、旅行会社の『コルシカ・ナポレオニカ社』を運営していらっしゃいますが、日本人向けに特化した旅行会社なのだそうですね。それはどういった理由からなのですか。

日本は『心の故郷』だからです。私は学生のときに1年日本で過ごしました。ESSECというフランスのグランゼコールの学生だった頃、日本の大手ファッションブランドで研修を行いました。そして早稲田大学近くにある和敬塾で日本の学生たちと交流を持つことができました。

この間、日本の気候風土や文化に触れたり、様々な出会いや経験を重ねたことで私はすっかり日本に恋をしてしまったのです。

例えば、日本のどのようなところがお好きなのでしょう。

日本の伝統建築が好きです。特に日本の庭がとても気に入っています。自然が完璧な形で取り入れられていて、見ていて『平和』を感じるのです。

また、有名な建築物以外にも、ごく普通の民家にも愛着を感じます。友人の家で寛ぐことも好きですし、以前に住んでいた文京区にある路地や小径も好きです。あと温泉の風情も好きですね。

日本中を色々巡られたそうですね。

本州と北海道は行きました。お気に入りの場所は、東京では中目黒や代官山の街の雰囲気が好きですね。

全国に目を向けると京都、金沢、日光に魅力を感じました。四国と九州はまだ訪れたことがないのですが「絶対に行きたい」と思っています。

特に『お遍路』で知られる四国八十八ヵ所の巡礼は、ぜひ経験したいです。自分の心と向き合いながら自然とふれあうことができると、フランスでも人気が高まっているアクティビティですからね。

とても親日家なのですね。日本のお料理は、お口に合いましたか。

外国人は皆そうなのですが、私も例外ではなく蕎麦と寿司、天ぷらが大好きです。天ぷらでは特にレンコンが好きで、お店に入るとまず「レンコンはありますか」と必ず聞くぐらいです(笑)。

そして、食事だけでなく、日本の人や街、モノ作りに触れて私が感心するのは、ひとつひとつに繊細な気づかいを大切にしているところです。

フランスは個人主義なのですが、日本人には『和』を大切にする精神があります。私自身も私のグループを大切したい思いがあるので、『和の心』にはとても心を打たれるのです。

アンリ・ド・ロッカ=セラ

フランス人を父に、ドイツ人を母に、フランス・コルシカ島で生まれる。
パリの名門ビジネススクール(グラン・ゼコール)及びマンハイム大学(ドイツ)にてMBAを獲得。その後、ニューヨーク、マドリッド、サントペテルスブルグ、東京など世界各国に滞在。日本滞在の際は、早稲田大学や学習院大学の近くにある和敬塾(村上春樹の小説「ノルウェイの森」に出てくる寮)に住み、日本人学生と多くの交流を持った。
パリのエコール・ド・ルーブルでも美術史を学ぶ。パリ日本文化会館(MCJP)にて日仏文化に関する講演会を数多く開催。また、団体での旅行も数多く企画した経験を持つ。
出身地コルシカ島の文化・遺産・郷土料理・歴史を日本の方に伝えるためコルシカ・ナポレオニカ社を設立。日本とコルシカ島との交流の架け橋的な活動を意欲的におこなっている。また、日本の文化、音楽、食、伝統工芸などをフランスに伝えるべく様々なイベントをフランスで取り組んでいる。

コルシカ・ナポレオニカ社 オフィシャルサイト
http://www.corsica-napoleonica.com/

スペシャルwebコンテンツ 公開

ACP紙面には掲載しきれない『とっておきのお話』が、下記のwebサイトでご覧いただけます。ぜひアクセスください。

●さーばすねっと
http://www.384.jp/
●くらしスクエアwith穴吹コミュニティ
http://www.kurasuku.jp/

※ご覧いただけるのは『さーばすねっと』『くらしスクエアwith穴吹コミュニティ』をご利用いただける方のみとなります。

[編集・発行] 株式会社 穴吹コミュニティ「アナブキ・コミュニティ・プレス」編集室　〒760-0071 香川県高松市藤塚町1-11-22 穴吹工務店本社ビル7階　0120-365-384(穴吹コンタクトセンター)

レストラン『グラン・ヴェフール』
ナポレオンが通っていたフレンチの名店。よく座っていたという席で撮影。

日本人には『和』を大切にする
美しい精神があります。
私自身それに触れ、とても心を打たれました。

INTERVIEW

コルシカ・ナポレオニカ社 代表取締役社長

アンリ・ド・ロッカ=セラ

Henri de ROCCA-SERRA

濃密でやさしい、日本での思い出。

お話を伺っていると、日本に対する造詣の深さを感じるのですが、日本滞在中にはディープな体験をされたのですか。

私は学生時代、早稲田や学習院大学の近くにある、男性専用の学生寮のような『和敬塾』という場所で暮らしました。それまで村上春樹の小説「ノルウェイの森」などから、日本人の学生生活をイメージしていたので驚くことが多かったですね。

でも興味深い経験もいっぱいできました。学食では毎朝お茶碗に白いホカホカのご飯、味噌汁が出されたことがうれしかったです。フランスで見ていた日本アニメのシーンそのものでしたから。「これが本当の日本生活なんだ！」って感動しました。

大学生活では、お茶の授業に惹かれました。お茶＝女性と思っていたので「サムライもお茶するんだな」と、最初はびっくりしたのですが、お茶には「時間を他人に捧げる」という概念があることを知り「すごく美しいイメージだな」と感心しました。

アンリさんはとても強い感受性をお持ちなのですね。感心しました。

もうひとつ、忘れられない経験があります。ある陶芸家の先生のお宅に1週間ほど滞在させていただいたことです。先生は当時80歳ほどで、日本語しか話せませんでした。けれど、所作や表情、言葉のトーンで陶芸を教えてくださったり、一緒に料理を作って食べたりしたのです。

その時間はとても濃密で、やさしく、私の人生に深みを与えていただけた出来事でした。今でも日本の大切な思い出の1つですね。

そんな経験の積み重ねがあって、私は“日本に恋をした”というわけです。そして日本の皆さんが、私をとても温かく受け入れてくれて、とてもうれしかった。

ですから、今度は日本の方を私の故郷であるコルシカ島で同じようなホスピタリティとサービスでお返しをしたいと思い、2016年に旅行会社を創設したんです。

これからは『心の故郷』日本に、コルシカ島のことをどんどん紹介して、いつの日かそれぞれの人が心で結ばれるよう、私は「日本とコルシカ島の架け橋になりたい」と思っています。

とても素敵なお話ですね。

私の家系は、コルシカ島の元貴族です。

アンリさんの姓を拝見して驚きました。英語の『of』にあたる『de』がつく名字は、フランスでは元貴族の方だと聞いています。

フランスの名前にお詳しいですね（笑）。確かに私の家系は、コルシカ島の元貴族です。祖先を中世までさかのぼると、コルシカ島の南に住んでいた領主なんです。

また、かの『皇帝ナポレオン』の家系とも深い関係を持っていました。例えば『ナポレオン3世（ナポレオン1世の甥）』の兄弟は、私の祖先の腕の中で亡くなったといわれています。そしてもちろん、私もコルシカ島の出身です。

コルシカ島は、とても風光明媚な場所だそうですね。その魅力をぜひお教えください。

コルシカ島は、フランスとイタリアの間にある地中海に浮かぶ島です。フランス語で“Ile de Beauté”（美しさにあふれた島）と称されていて、地中海で最も美しい島だといわれています。

歴史的にみると、フランス領になったのは約250年前のことで、18世紀に一度は独立を果たしたことがありますが、それまではイタリア領だったんです。

コルシカ島には英雄がふたりいて、ひとりは誰もがご存知のナポレオン。そしてもう1人は、民主主義の憲法を作った人として知られる『パスカル・パオリ』です。様々な文化が交差して、独自の文化を育んだことで世界的な英雄を育くんだのではないでしょうか。

地理的にいうと、広さは日本の四国の2分の1ほどの面積なのですが、標高2700mの最高峰『サント山』をはじめ、2000m超級の山々が連なり、島を東西に分け、それぞれ独自の文化が花開きました。

食文化もそのひとつで、コルシカの料理はイタリアの影響を受けながらフレンチの技と融合したことで、世界でも高い評価を受けています。また美味しい海の幸、山の幸が豊富な土地ですから、その味わいの豊かさは、得も言われぬ素晴らしさですよ。ぜひ多くの方に、現地で召し上がっていただきたいですね。

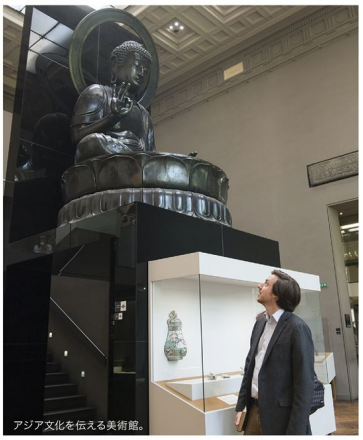
温暖な気候風土に、素敵な食文化。何っているだけでワクワクします。

ありがとうございます。花や植物などの自然も手付かずの状態で残っているので、この島は草花の良い香りに包まれています。ナポレオンが「コルシカ島に来たら、目を閉じていてもわかる」といった逸話が残っているほどです。

また「ファーブル昆虫記」で有名なファーブルが、若い頃この島の自然に触れ、その素晴らしさに心奪われて自然や昆虫の研究に没頭したという話がいまも伝わっています。

それから…、申し訳ありません。私が故郷の魅力を語りだすと止まらなくなりますから、この辺にしておきましょう（笑）。

パレ・ロワイアルにある、皇帝ナポレオンの置人形などを扱う雑貨店。



アジア文化を伝える美術館。

本当のコルシカを、現地で見て触れて感じて欲しいです。

お話を伺っていて、コルシカ愛に満ちていることを肌で感じます。しかし、故郷の素晴らしさや美しいイメージをしっかり伝えることは難しくないですか。

そうですね。コルシカの隠れた魅力まで伝えるとなると、とても難しいです。だから先日は、料理研究家の『大森由紀子』さんをはじめとして、彼女の関係で日本の各地方の有名な料理研究家やソムリエの方々をコルシカにお招きし、ローカルの生産者、レストランのシェフ、パティシエなどを訪問していただきました。

その素晴らしさを肌で感じてもらうことで、多くの方にコルシカ島の魅力を伝えていただくお手伝いをお願いしています。

私が運営する『コルシカ・ナポレオニカ社』には、コルシカ島でただ観光を楽しむのではなく「現地のならではの魅力を体験してもらうことによって、様々なことを学び、理解していただきたい」というコンセプトがありますので、日本とは違う文化に触れていただき、現地の人とのコミュニケーションも体感してほしいと思っています。

バケーションシーズンを控えて、コルシカ島でのオススメの夏休みの過ごし方を教えてください。

コルシカ島は夏に限らず、オールシーズン楽しめるところです。春は花、夏には爽やかな陽ざし（気温は高くなりますが、湿気がないので快適です）、秋の平和で落ち着いた雰囲気。冬は観光客が最も少ないので「本当のコルシカ」を味わっていただけますよ。

ただ僕は、どんな季節でも最低3～4日は滞在していただきたいのです。なぜなら、ここにはコルシカ、フランス、イタリアという3つの文化が息づいているからです。

そして、もし旅していただけるなら、ぜひ私に任せてほしいですね。私は訪れた方が心からコルシカ島の素晴らしさを感じてもらえる旅を、ご用意してお待ちしています。

"2つの故郷"からパワーをもらいながら頑張っていきたい。

アンリさんは、仕事としてはもちろんですが、それ以外にも日本とコルシカ島をつなぐ架け橋的な活動をされているそうですね。

日本では『出会いのイベント』を開催しました。表参道のレストランを会場にコルシカ島を知っていただくためのグルメイベントだったのですが、とても盛況でした。

そのほか最近では、恵比寿にある日仏会館でコルシカ島の素晴らしさを伝える講演を行いました。その時は友人でもある『フランソワーズ・モレシャン』さんも講演に参加しました。それで彼女のためにコルシカの旅を企画しました（その時の旅の様子はこちらの動画でご覧になれます。https://vimeo.com/202151788）。そして彼女自身その魅力を知り「いつかバカンスでコルシカに行きたい！」と言ってくださいました。

一方、フランスでは日本を紹介するイベントを開催しています。日本文化の奥深さを伝える講演をしたり、ダンスや音楽など新しいイノベーションを発信するイベントなのですが、こちらも盛況でした。

また『東日本大震災』の追悼コンサートをおこなった際は、津波で流された岩手県陸前高田市の木で作った笛で演奏をしてたくさんの共感の声をいただきました。多くのフランス人に、その悲しみと復興への思いを届けられたと思います。

コルシカ島やフランスの方と日本人の架け橋として多様な活動をされているのですね。今後も精力的な活動に取り組まれていかれるのですか。

もちろん。今後もこの活動は続けていきたいです。

これまで、東京や横浜など首都圏を中心にコルシカ島の文化や歴史についての講演やイベントを展開してきましたが、これからは大阪、京都、福岡、高知など様々な都市でも行っていきたいです。

また、フランスでは今年『ジャポニズム2018』という日仏の160年の友好関係を記念するイベントがフランスの各都市で行われます。この催しには私自身ができることを考え、積極的に参加していきたいです。

いま以上に忙しくなると思いますが、コルシカ島と日本、この2つの私の故郷からパワーをもらいながら頑張っていきたいと思っています。

私たちも今回アンリさんとお話しさせていただいて、コルシカ島にとても興味が湧いてきました。本紙読者の皆さまも同じではないでしょうか。いつの日か、コルシカ島の素晴らしい青空に触れてみたいです。本日は、興味深いお話をありがとうございました。

●日仏経済交流の詳細についてはこちらをご覧ください。
http://www.parisclub.gr.jp/event/2017-01-24-1.html